

会 報

平成25年度第1回日本公衆衛生学会理事会議事録

1. 日 時 平成25年4月22日（月）13:00～15:30
2. 場 所 日本公衆衛生協会 1階会議室
3. 出席者 理事長 大井田隆
 学会長 笠島 茂
 理 事 青柳 潔 安西将也
 磯 博康 今中雄一
 遠藤 明 遠藤弘良
 尾崎哲則 角野文彦
 小島光洋 小林廉毅
 櫻山豊夫 佐々木隆一郎
 佐藤眞一 住友眞佐美
 田中久子 中川秀昭
 原田規章 平野かよ子
 松谷有希雄 宮寄雅則
 武藤孝司 村嶋幸代
 安村誠司 山縣然太郎
 (26人)
- 監 事 相澤好治 馬場園明
 (2人)

委任状提出者

- 副会長 青木重孝 市川和彦
 北岡寛之 (3人)
- 理 事 高野健人 中沢明紀
 本橋 豊 (3人)

現在理事数32人、出席者26人、委任状提出者6人。学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、大井田隆理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち大井田理事長から平成24年度の会員が昨年度より増加している、今後とも会員増に努めていきたい旨の挨拶があった。

議事録署名人 住友眞佐美理事、田中久子理事が指名された。

議 事

第1号議案 第72回（平成25年度）日本公衆衛生学会総会について

笠島 茂学会長から下記の説明があった。

- 71回総会の山口大学と73回総会の獨協医科大学とで引き継ぎ会をした。
 - 基調講演、招待講演が決まった。他に教育講演10題、シンポジウム28題を予定している。
 - HPに各種申込画面を公開した。
 - 県庁等の人事異動に伴い組織の変更があった。
- 以上により、本議案は了承された。

第2号議案 第73回（平成26年度）日本公衆衛生学

会総会について

武藤孝司次期学会長から下記の説明があった。

- 栃木県の関係者と数回にわたり協議している。
- 会場の都合で、11月に入ってからの開催となる。
- 東京からは50分で来ることができるが、宿泊施設は確保できる。
- 委託業者が先週末まで募集し数社集まったので、選定する。

第3号議案 第74回（平成27年度）日本公衆衛生学会総会について

理事長から1月の理事会で74回総会は九州ブロックですることとなった。1年半前から青柳 潔理事から長崎県で開催したい旨発言があり、県と市との協力を得られることとなったが、昨年10月に鹿児島県から理事長あてに74回総会を鹿児島県で開催したい旨の要望書が送られてきた経緯の説明があった。

検討の結果、理事会として青柳 潔理事を学会長候補として推薦することを決議した。

以上により本議案は10月の評議員会にかけることとした。

第4号議案 奨励賞受賞者について

笠島 茂委員長から本日午前中に開催した奨励賞選考委員会の選考結果として4名の候補者から下記の3名を奨励賞候補者とした旨報告があった。

大井田理事長から本年度の奨励賞について、選考委員会の結果を踏まえ次の方々を表彰したいので、本理事会においてご了承頂きたいとの提案があり、了承された。

- 神田秀幸 社会における健康リスクと関連要因に関する研究
- 和田耕治 新型インフルエンザに対する公衆衛生対応の研究
- 春山康夫 地域住民に対する生活習慣介入プログラムによる循環器疾患リスクの改善効果

奨励賞の選考について、研究面を評価するのか、実践面を評価するのか、明確にしてほしいとの意見がだされ、次回以降の理事会で細則案を決めることとした。

第5号議案 本学会認定公衆衛生専門家の承認について

高野委員長から9人からの申請があり8か所の地方試験委員会で試験を行った結果を基に、持ち回り認定委員会で9人の方を「可」とした。

以上により、本議案は了承された。

これまで認定した公衆衛生専門家認定研修会・地方公衆衛生学会が紹介された。

第6号議案 委員会、及び関連会議・学協会等の報告・審議事項

1) 編集委員会

小林編集担当理事から投稿規定の改正について下記の説明があった。

① 行政からの投稿が増えているため「公衆衛生活動報告」を明確化した。

② 文献としてのインターネットサイトの記載例を示した。

③ 一度投稿された原稿の差し替えには応じないことを明記した。

2) 研究倫理審査委員会

小林理事からこの4月からの新委員について説明があった。

3人の委員が交代したが、市民の立場 法律の立場 保健医療の立場の方で、市民の立場と法律の立場の人は会員以外としている。

また、現在2件の申請があり、審査中である。

3) 公衆衛生モニタリング・レポート委員会

原田委員長から3月22日の委員会について説明があった。

① 健康危機管理小委員会のシステムの構築

② ヘルスプロモーション小委員会のたばこと非正規雇用

③ 72回総会時のシンポジウムについて

健康危機管理小委員会

遠藤弘良委員長から危機管理のモニタリングするにはシステムの構築が大切であることから、認定専門家に協力を依頼しアンケート調査を実施する。そのアンケート調査用紙の説明があり、ご意見があったら遠藤委員長に伝えることとなった。

ヘルス・プロモーション小委員会

青柳 潔委員長から非正規雇用についてワーキンググループで活動している旨説明があった。

4) 教育・生涯学習委員会

今中雄一委員長が欠席のため、磯 博康理事から説明があった。

① 8回目を迎える「論文の書き方研修」は計画とおりだが、今回は70名を50名に絞り込んで研修を行う。

② 東海公衆衛生学会に10万円助成をした。

5) 地域保健医療福祉委員会

健診・保健指導専門委員会

武藤委員長から厚労省から「標準的な健診・保健指導プログラム改訂版」がでたので、それに対する意見を委員会開いて検討する旨、説明があった。

感染症専門委員会

角野委員長から総会時の最終日の午後4時間にわ

たり開催する感染症のセミナーについて説明があった。

たばこ対策専門委員会

尾崎委員長から昨年日本公衆衛生協会から出した「特定健康診査・特定保健指導における禁煙支援のありかた」の改定版を作成しているが、中村委員が多忙のため委員会を開催できない旨、説明があった。

地域保健対策専門委員会

住友眞佐美委員長から、10月の総会時の感染症のセミナーには共催の形で参加することなので、そのことを含めて5月10日委員会を開催する旨、説明があった。

自殺対策・メンタルヘルス専門委員会

本橋委員長欠席のため、大井田理事長から下記の説明があった。

① 内閣府の平成24年度「自殺対策強化月間」に協賛した

② 科学的根拠に基づく自殺予防総合対策推進コンソーシアム(COPES)準備会への参加について説明があり、検討した結果、承認することとした。

東日本大震災対策専門委員会(仮称)の設置について

大井田理事長から、1月の理事会のあとに、東日本震災に関する委員会を設置してほしい旨要望があり、また、長期間の人材派遣の依頼あったが学会としては対応できないので、本学会としてできることを検討していきたい。委員長は東北ブロック選出の本橋 豊理事になっていただき委員を人選して委員会を立ち上げる、との提案があり、了承された。

6) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会

村嶋委員長から2月22日の委員会と72回総会のシンポジウムについて説明があった。

① 三重の学会総会では「変革期における ソーシャルキャピタル」のタイトルでシンポジウムを開催する。

② 看護職の評議員に声をかけ良い事例を集め事例集を作成する。

7) 専門職委員会

第5号議案で説明

8) 役員選挙に関する検討委員会

磯委員長から、HPとメルマガで行ったパブリックコメント募集の回答について下記の説明があった。

① 思ったより多くの意見をいただいた。

② 評議員選出に会員年数を設けることに賛成の意見が多かった。

③ 反対理由としては、どうして会員年数を設けるか明確ではないし、会員年数は活動と関係ない。との意見が多かった。

④ 会員歴を何年にするかは委員会で検討し7月の理事会にかける

9) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

安村理事から下記の報告があった。

① 4月12日に23の学協会が集まり総会を開催した。

② 子どもの健康リスクと健康教育に関してシンポジウム等を開催し提言していくこととした。

③ 日本疫学会内に全公連の事務局をおくこととした。

10) 日本医学会

櫻山豊夫理事から2月20日開催の日本医学会評議員会の報告があった。

① 第29回医学会総会の準備状況について

② 2012年度の新規加盟学会について、6学会から推薦があり、審査の結果承認した。

③ 一般社団法人化について

小林理事から追加説明があった。

① 第29回医学会総会のバナーをHPにのせた。

② 法人化に伴う負担金については、基本料金5万円+会員数(学生会員を除く)×100円を予定している。

大井田理事長から下記の報告があった。

法人化組織委員会委員選出のお願いがきており、委員会は継続審議となるのでできたら前任者を推薦いただきたいとの要望があり、小林理事も了承して下さったので、引き続きお願いすることとした。

11) 日本学術会議関連

磯理事から第86回日本産業衛生学会で学術会議と共催してシンポジウム「特定健診・特定保健指導：産業保健と地域保健の連携」を開催する旨説明があった。

第7号議案 その他

遠藤弘良会計担当理事から学会会計について下記の説明があった。

① 印刷費を5%削減、会議の旅費を実費にしたため、かなりの節約ができた。常に見直しをしながら学会の適性が運営に努めたい。

② 謝金の支給基準について説明があり、了承された。

報告事項

1. 名誉会員の推戴について

中川名誉会員担当理事から今年度の名誉会員の候補者を6月中に推薦してほしい旨依頼があった。

2. その他

磯庶務担当理事から日本健康科学学会第28回学術大会、第59回東海公衆衛生学会学術大会から後援依頼、フォーラム2013：衛生薬学・環境トキシコロジーから協賛依頼があり、承認した旨報告があった。

中川広報担当理事から、学会にせっきやく入会しても退会する人が多いのでメンバーリストを作ってはという提案があったが、対応が難しいので、メルマガを使って活動する旨報告があった。